学力向上通信　Vol. 44
「三重の学-Viva!!（まなびば）」

２月号

三重の学Viva!!

2
2019

発行者：三重県教育委員会
「学力向上緊急対策チーム」
連絡先：研修推進課
TEL：059-226-3572

※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

年度内に子どもたちに学習内容の確かな理解と定着を！

２月に入り、学年末まで残すところ２ヶ月となりました。１年間の学習のまとめを進めるにあたって、ぜひ、今回の「みえスタディ・チェック」を活用してください。今回のみえスタディ・チェックは４月からの学習の定着状況の確認や経年での比較検証ができるよう問題を作成しました。また解説資料には、設問ごとに前回の県平均正答率を掲載しています。

そこで、**年度内に学習内容の確かな理解と定着につなげるため**に、次のような取組を進めましょう。

○「どんな問題ができているか」「どんな問題ができていないか（どこでつまずいているのか）」を学校全体で共有する。

○学-Viva!!セット第 12 弾（11 月配付）・第 13 弾（2 月配付）等を活用し、学校全体で、できていないところをできるようにする取組（授業での繰り返し指導、補充学習、家庭学習）を進める。

この設問に注目！！

（平成３０年度第２回みえスタディ・チェックの設問から）

小学校国語　１二(2)　【出題の趣旨】文中における主語を正しく捉える

平成３０年度第１回
小５みえスタ１二(２)
［県平均正答率：36.0%］

【問題】次の文の~~~部の主語に当たるものを―部１から４までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

祖母は(1) 和がしが(2) 好きと 言って いたので、わたしは(3) まんじゅうを 持って 祖母の 家へ(4) 行った。

☆ つまずきと指導のポイント☆

【考えられるつまずき】

文の内容を読み取らず、文の初めに出てくる「○○は」が文の主語であると捉えている。

【指導のポイント】

◎問題文は、二つの文が「ので」で組み合わされたものです。文の構造を理解させたうえで、「行った」のは誰かを考えさせましょう。

・「だれ(何)は」「だれ(何)が」が主語であることを理解する。(1、2 年)
・「～は(が)」であっても、文全体の主語ではなく、部分の主語である場合があることを理解する。(3、4 年)
・単文・複文・重文の構造を理解する。(5、6 年)

◎主語と述語の関係は、表現するときだけでなく、文章を読む時も意識させることが大切です。

◎適切な係り受けの関係が、伝えたいことを相手に正確に伝える上で大切であることに気付かせましょう。

☆ 確認用ワークシート☆

学-Viva!!セット第１２弾、第１３弾「主語と述語について考えよう」

中学校国語　２二　【出題の趣旨】目的や意図に応じて要約して書く

平成 28 年度第１回
中２みえスタ２三
［県平均正答率：39.0%］

【問題】次の条件１、条件２にしたがって、筆者が表現活動をする際に心がけていることとその理由を書きなさい。

☆ つまずきと指導のポイント☆

【考えられるつまずき】

「筆者が心がけていること」を、文中の「今日みなさんとやってきたようなこと」と捉えている。（適切に文章から読み取る（本問の場合「どんな要素が効果的なのかを判断すること」）ことができていない）

【指導のポイント】

◎問題文の最後の段落に筆者の考えが書かれています。最後の段落の接続語（「このように」）に着目させ、これまでの内容が筆者の考えの根拠となっていることを捉えさせましょう。

◎指示語やそれに相当する言葉は、具体的な内容に置き換えるように指導することが大切です。

☆ 確認用ワークシート☆

学-Viva!!セット第１３弾「目的に応じて文章を要約しよう」

小学校算数　1(2)　【出題の趣旨】小数の除法の意味について理解している

平成３０年度全国学調Ａ２
[県平均正答率：36.9%
全国差：－3.0]

【問題】答えが 12÷0.8 の式で求められる問題を、下の**1**から**4**までの中から**すべて**選んで、その番号を書きましょう。

1　赤いテープの長さは 12cm です。白いテープの長さは、赤いテープの長さの 0.8 倍です。白いテープの長さは何 cm ですか。

2　長さが 12mのリボンを 0.8mずつ切っていきます。0.8mのリボンは何本できますか。

3　１mの重さが 12kg の鉄の棒があります。この鉄の棒 0.8mの重さは何 kg ですか。

4　0.8Ｌで板を 12 ㎡ぬることができるペンキがあります。このペンキ１Ｌでは、板を何㎡ぬることができますか。

☆ つまずきと指導のポイント☆

【考えられるつまずき】

・「わられる数がわる数の幾つ分になっているか」や「割合（倍）と基準量・比較量との関係がどのようになっているか」などの問題場面が捉えられない。

・「倍」「~本ずつ」などの言葉と、小数の除法の意味とをつなげられていない。

【指導のポイント】

◎問題を解くとき、図や数直線図に表し、数量の関係を的確に捉え、立式させましょう。

◎乗法や除法の問題で、テープ図や数直線の図で考えるとき、□（求める数）の場所が異なることを確認し、割合に当たる大きさを求める場合には乗法、１に当たる大きさを求める場合には除法を用いることができるようにしましょう。

☆ 確認用ワークシート☆

学-Viva!!セット第９弾「「倍」とかけ算・わり算③④」

中学校数学　1(5)　【出題の趣旨】数量の関係を文字式に表すことができる

平成３０年度第１回
中２みえスタ１（４）
[県平均正答率：3.0%]

【問題】ひとみさんの学校では毎月１回、全校生徒で空き缶の回収を行っています。今月の回収量は a kgで、先月より 20%多くなりました。先月の回収量は何kgですか。a を用いた式で表しなさい。

☆ つまずきと指導のポイント☆

【考えられるつまずき】

・与えられた情報から、「基準量」、「比較量」、「割合」の関係を正しく捉えられない。

・捉えた関係を文字式に表すことができていない。

・百分率で表された増加した割合を小数に表すことができていない。

【指導のポイント】

◎関係図・数や言葉を使った式を利用し、文字式に表す活動を繰り返し取り入れることが大切です。

◎「定価の 30%引き」「20%増量（多い）」など、日常生活で使われる言葉を引用し、「割合」の領域に触れる活動を取り入れましょう。

☆ 確認用ワークシート☆

学-Viva!!セット第 12 弾「文字を用いた式（割合）」、第 13 弾「割合の復習（百分率）」

確認用ワークシート（学-Viva!!セット第 12 弾・13 弾）を活用しましょう

学―Viva!!セット第１３弾の主な内容は次のとおりです。ぜひ、子どもたちの学習内容の理解と定着状況の確認にご活用ください。

	教科	主　な　内　容	学調との関連	正答率(全国)%
小学校	国語	・目的に応じて必要な内容を引用して、自分の考えを書く	H30　B1三	32.7(33.8)
		・文中における主語・述語を正しく捉える	H27　A2一	51.5(53.1)
	算数	・多角形と円（円周率の求め方、円や多角形の特徴）	H30　A7(1)	39.0(41.6)
		・小数のかけ算とわり算（倍とかけ算・わり算、テープ図・数直線図）	H30　A1(3)	63.9(65.3)
	理科	・砂糖を水に溶かした時の全体の重さを求める	H30　4 (3)	38.4(42.7)
		・メスシリンダーで一定の水を適切にはかり取る	H27　3 (5)	47.1(51.7)
中学校	国語	・文脈に即して漢字を正しく書く	H28　A9－1	82.2(83.5)
		・目的に応じて文章を要約する	H28　B2二	61.5(64.0)
	数学	・割合の復習（百分率）（基準量・比較量・割合を捉え、百分率に表す）	H30　B 5(1)	14.5(16.0)
		・範囲と最頻値・中央値（度数分布表から資料の傾向を読み取る）	H30　A14(2)	73.2(74.0)
		・図形の証明・図形の性質（三角形の合同条件をもとに結論を導く）	H30　B4(3)	41.5(42.3)
	理科	・実験で１つの要因を変えると、その他にも変わる可能性のある要因を指摘する	H30　2(4)	57.4(61.3)
		・オームの法則を使って、抵抗の値を求める	H30　6(2)	50.2(51.9)
	外国語	・聞いて把握した内容について、自分の考えを書いて伝える		
		・まとまりのある文章を読んで、話の概要を理解する		

トピック

ここが変わる！！

平成３１年度全国学力・学習状況調査

全国学力・学習状況調査は、**学習指導要領の理念・目標・内容に基づき、学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力を具体的に示すメッセージ**になっています。そこで、**この調査にしっかりと取り組んでいくこと**、**調査問題や子どもたちの解答状況・分析結果を年間通じて計画的に活用していくこと**が、子どもたち一人ひとりの**確かな学力**につながります。

平成３１年度全国学力・学習状況調査の実施については、昨年１２月にその実施要領が文部科学省から公表されました。今回、**調査問題の在り方の見直しの方向**として、「平成 29 年３月に公示された学習指導要領は、教科等の目標や内容について、**生きて働く『知識及び技能』**、**未知の状況にも対応できる『思考力、判断力、表現力等』**、**学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力、人間性等』という三本の柱**に基づいて再整理されており、これらの資質・能力の三つの柱が相互に関係しながら育成されるものという考え方に立っている」「こうしたことから、平成 31 年度以降の調査の問題作成に当たっては、**新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、A 問題と B 問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問うこととする**」ことが示されました。

上記の考え方を踏まえて、**平成 31 年度調査問題から次の 2 点が主に変更**されます。

1　教科に関する調査問題について、知識・活用を一体的に問う問題に変更
2　中学校の教科に関する調査に新たに英語を実施（次回号で紹介）

※詳細は、平成３１年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領でご確認ください（H30.12 月送付）。

「知識・活用を一体的に問う問題に変更」って今までと何が違うの？

「教科に関する調査問題について、知識・活用を一体的に問う問題に変更」する内容について**小学校算数のサンプル問題（文部科学省提供）**を例に紹介します。

小学校第６学年算数の問題

平成２７年度調査問題 B２を基に

たか子さんたちは，調理実習に必要な材料をそろえるために，買い物に行くことにしました。

たか子さんのおさいふの中には，1000 円札が２枚（まい），100 円玉が４枚，10 円玉が３枚入っています。

(1)　たか子さんのおさいふには，いくら入っているでしょうか。求める式と答えを書きましょう。

◎導入に当たる小問であることを考慮して、子どもたちにとって、**身近な日常場面の問題、かつ、取り組みやすい問題が設定**されます。

◎単なる計算問題ではなく、例えば、**１つの式で表すことができる子がどの程度いるのか、１０００円２枚を１０００＋１０００ではなく１０００×２と表す子がどのぐらいいるのかという分析ができる問題**です。

◎このような問題の理解は、**中学校の文字式の学習につながります。**

◎「主体的・対話的で深い学び」を意識して、**子どもどうしの会話の場面、かつ、思考場面を設定**しています。

◎さらに、「粘り強く学習に取り組む態度」を意識して、選択式問題ではなく、**試行錯誤しながら最適解を見つけ出す問題**となっています。

お店に着いたたか子さんたちは，トマト７個を買うことにしました。

１個入りパック	２個入りパック	３個入りパック
100 円	180 円	270 円

たか子：１個入りパックを７つ買うと 700 円ですね。

さとみ：２個入りパックや３個入りパックを使うと，もっと安く買えそうですよ。

たか子：それでは，どのような買い方があるのか考えてみましょう。

たか子さんの考え	さとみさんの考え
２個入りパックを３つと，１個入りパックを１つ買うと 180 × 3 = 540，540 + 100 = 640 だから，640 円になります。	３個入りパックを２つと，１個入りパックを１つ買うと 270 × 2 = 540，540 + 100 = 640 だから，640 円になります。

さとみ：代金が同じになりましたね。代金がもっと安くなる買い方はないのかな。

(2)　トマト７個の代金が最も安くなる買い方を書きましょう。また，その買い方をしたときのトマト７個の代金を書きましょう。

※各学校には、小学校国語・算数、中学校国語・数学のサンプル問題（解説付き）をすでに提供（H30.８月）していますので、授業改善に活用してください。

学力向上に向けた

具体的な実践事例

【事例３４】川越町立川越北小学校

学ぶことを愉しみ合う子どもの育成

この子たちをやる気にさせるには、いったいどうしたらいいんだろう？

どうしたら授業中、集中していられるのかな？

そんな思いからのスタートでした。子どもたちどうしを「学び合い」の授業の中でつなぎ、「わからないが安心して言える教室」「学びをあきらめない子ども」をめざし、チーム川越北として「学ぶことを愉しみ合う子どもの育成」をテーマとして研修を重ねてきました。

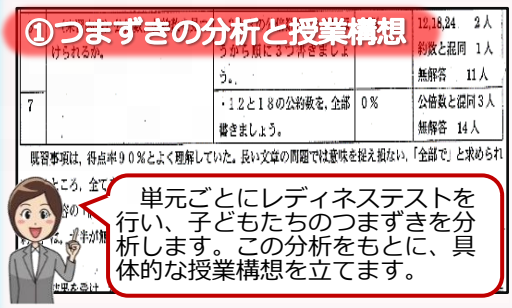
細かな分析による習熟度別少人数指導

算数の学習に対して前向きに取り組もうとする子が多いし、好きな教科を「算数」と答える子も多いんだけど…でも、学力の差が大きいんだよね。

毎日自主学習をやってくる子もいれば、宿題が分からない子もいるし、数字を正しく書き写すことに困り感を持っている子などいろんな子がいるよね。どうにかしてみんなの学力を高めたいよね。

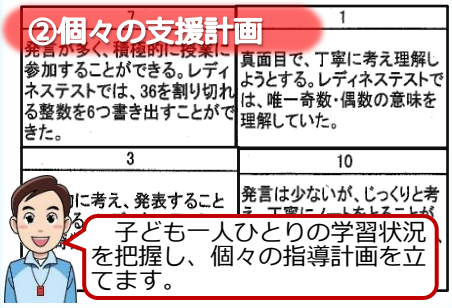
そこで、本校では、４年生より習熟度別少人数指導を実施しています。コースについては、単元ごとに子どもと家の人が相談し、学びたいコースを選択しています。コースは固定化することはなく、教師は、希望を参考に、子どもの様子を見てクラス編成をしています。

①つまずきの分析と授業構想



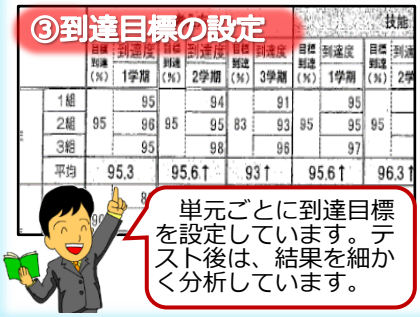
単元ごとにレディネステストを行い、子どもたちのつまずきを分析します。この分析をもとに、具体的な授業構想を立てます。

②個々の支援計画



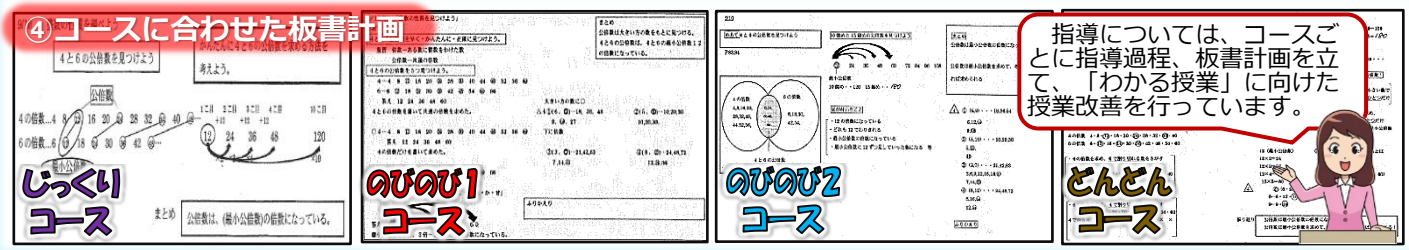
子ども一人ひとりの学習状況を把握し、個々の指導計画を立てます。

③到達目標の設定



単元ごとに到達目標を設定しています。テスト後は、結果を細かく分析しています。

④コースに合わせた板書計画



指導については、コースごとに指導過程、板書計画を立て、「わかる授業」に向けた授業改善を行っています。

子どもの声

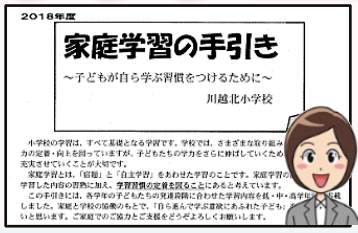
じっくりコースで先生にわかりやすく教えてもらっています。

少ない人数で勉強できるので先生に質問がしやすいです。

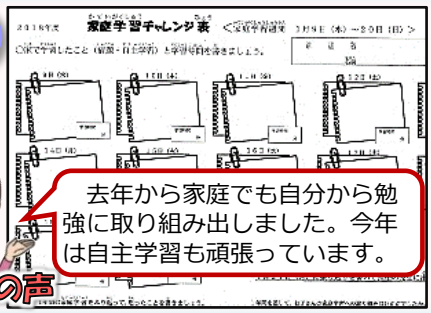
保護者の声

子どもにあった授業で、一つひとつ丁寧に教えていただいています。特に算数は、自分にあった授業で、子どもは楽しく勉強しています。

家庭学習・自主学習の充実



本校では「自ら進んで学ぶ意欲にあふれた子ども」を育てるため子どもたちの発達段階に合わせた家庭での学習内容を低・中・高学年別に掲載した「家庭学習の手引き」を各家庭に配付しています。家庭と学校の協働のもとで家庭学習の充実に取り組んでいます。



保護者の声

去年から家庭でも自分から勉強に取り組み出しました。今年は自主学習も頑張っています。

川越町立川越北小学校長からのコメント

川越町としての授業づくりの基礎「川越スタンダード（川越町教育委員会が示す授業改善に向けた小中学校共通のルール）」を踏まえながら、本校では研修主題を「学ぶことを愉しみ合う子どもの育成」とし、基礎・基本の確実な定着や、思考力を高める授業づくりに学校が一丸となって取組を進めています。そのために「習熟度別少人数指導」や「家庭学習・自主学習」を充実させるとともに、学力調査や各単元のテスト、レディネステストの結果の細やかな分析から、子どもたち一人ひとりのつまずきを明らかにして、授業改善を進めています。